

新たながん患者 100万人超

国立センター16年予測

●2016年のがん患者予測 (上位5位)

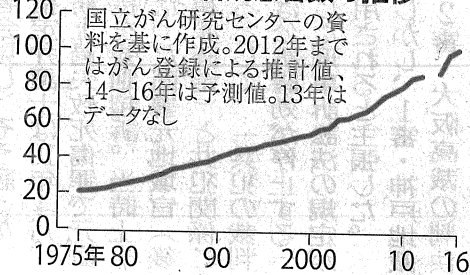
男性		女性	
部位	人数	部位	人数
前立腺	9万2600	乳房	9万
胃	9万1300	大腸	6万2500
肺	9万600	肺	4万3200
大腸	8万4700	胃	4万2600
肝臓	2万9000	子宮	3万200

同センターによると、新たな患者数は、男性57万6100人、女性43万4100人。15年の予測より男女合計で2万8100人増え

男性 前立腺 女性 乳房が多く

2016年に新たにがんと診断される患者数は101万2000人に上るとする予測を15日、国立がん研究センターが発表した。年間の新規患者数の予測が100万人を超えるのは初めて。新たな患者数は統計を取り始めた1975年から増え続けており、約40年で5倍になった。

●がん新規患者数の推移



た。高齢者人口の増加や、診断精度が向上して小さながんが見つかるようになった。

たことが原因という。部位別では、大腸、胃、肺のがん患者数が13万514万人で上位。男女別では、男性が①前立腺②胃③肺④大腸⑤肝臓の順で、女性が①乳房②大腸③肺④胃⑤子宮の順で多かった。大腸がんや前立腺がんなどは高齢化に伴って増え続けているが、胃がんや肝臓がんは、原因となるピロリ菌や肝炎ウイルスの感染者が減っていることで減少傾向にあるという。

また、がんによる死亡者数は、15年より31000人多い37万4000人(男性22万3000人、女性15万3700人)と予測した。部位別では、男性は①肺②胃③大腸④肝臓⑤膵臓、女性は①大腸②肺③胃④膵臓⑤乳房の順だった。同センターは、都道府県で集計しているがん登録や人口動態統計の死亡者数、将来推計人口などを基に、14年から年内の新たな発症者数と死亡者数を予測し、公表している。

元自治体が共同で避難計画を策定しているが、改定は初めて。昨年8月に作られた伊方原発の避難計画には、事故時に孤立する恐れがある佐田岬半島の住民の優先的な避難や、対岸の大分県への船による避難などが盛り込まれた。今回の改定では、大分県の港湾が被災した場合を想定し、原発から遠い愛媛県内の港湾を避難先に追加。地震で道路が寸断された際の避難経路も示した。